

公表監第8号

地方自治法第199条第2項及び第4項の規定による定期監査（教育委員会）並びに同条第7項の規定による財政援助団体監査（一般財団法人 西宮市職員自治振興会）、出資団体監査（株式会社 鳴尾ウォーターワールド）及び指定管理者監査（一般社団法人 西宮高齢者事業団）を実施したので、同条第9項の規定に従い、別紙のとおり公表します。

令和2年11月20日

| | |
|---------|-------|
| 西宮市監査委員 | 石原俊彦 |
| 同 | 佐竹令次 |
| 同 | 板戸史朗 |
| 同 | 大川原成彦 |

目 次

出資団体監査結果報告

株式会社 鳴尾ウォーターワールド

| | | |
|----|------------|--------|
| 第1 | 監査の対象 | 16 - 2 |
| 第2 | 監査の期間及び方法等 | 16 - 2 |
| 第3 | 監査の結果 | 16 - 2 |
| 1 | 会社の概要 | 16 - 2 |
| 2 | 事業の実施状況 | 16 - 3 |
| 3 | 経営成績 | 16 - 6 |
| 4 | 財政状態 | 16 - 8 |
| 5 | 事務処理等の状況 | 16 -10 |
| 6 | 市と会社の関わり | 16 -11 |
| 7 | むすび | 16 -12 |

凡 例

- 各表中の符号は、次のとおりです。
「0」「0.0」は、0又は単位未満のもの。
「△」は、減少・低下。
「-」は、算出不能・不要。
- 文中及び表中に用いている比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、合計と内訳の計、差引きが一致しない場合があります。
- 文中及び表中に用いている数値で、千円単位又は万円単位で表示しているものは、単位未満を切捨てています。このため、合計と内訳の計、差引きが一致しない場合があります。
- 原則として、「第3 監査の結果」以降の文中の元号表記については「令和」を省略し、表中については、全ての元号を省略しています。

報告監第16号

令和2年11月19日

| | |
|---------|-------|
| 西宮市監査委員 | 石原俊彦 |
| 同 | 佐竹令次 |
| 同 | 板戸史朗 |
| 同 | 大川原成彦 |

出資団体監査結果報告

(株式会社 鳴尾ウォーターワールド)

地方自治法第199条第7項の規定により出資団体監査を西宮市監査基準に準拠して行った結果は次のとおりですので、同条第9項の規定に従い報告します。

出資団体監査結果報告書

第1 監査の対象

株式会社鳴尾ウォーターワールド（以下「会社」という。）における、主として平成31年4月1日から令和2年3月31日までの期間に執行された出納その他の事務を対象に監査を実施しました。

なお、報告書の作成にあたっては、事務の執行状況について、会社及び所管部局提出の直近の数値を用いるよう努めました。

第2 監査の期間及び方法等

令和2年8月4日から事務局監査に入り、同年10月15日には会社及び西宮市土木局関係職員の出席を求め、監査委員による質問会を実施し、その後、結果報告の審議を行いました。

監査にあたっては、対象事務について、合規性、経済性、効率性、有効性の観点から実施しました。

第3 監査の結果

次のとおりです。

1 会社の概要

(1) 設立の目的

会社は、鳴尾浜臨海公園南地区の健康運動施設「リゾ鳴尾浜」の管理運営業務を行うことを目的として、平成3年11月7日に設立され、民間企業の資金とノウハウを活用し、事業の独立採算を維持しつつ、利用者により良いサービスを提供するため、西宮市ほか民間企業による第三セクター方式で運営されています。

(2) 資本金

会社の資本金は9,000万円で、現在、株主数は6で、会社の発行する株式の総数は7,200株ですが、発行済株式数は1,800株（内、40株は自己保有）となっています。

市の出資金額は3,600万円、出資比率は40.91%となっています。

設立後の増・減資はありません。

現在の株主ごとの出資額は、次のとおりです。

(単位：円・株・%)

| 株主 | 出資金 | 所有株式数 | 出資比率 |
|-----------|------------|-------|--------|
| 西宮市 | 36,000,000 | 720 | 40.91 |
| 阪神電気鉄道(株) | 36,000,000 | 720 | 40.91 |
| アサヒビール(株) | 4,500,000 | 90 | 5.11 |
| (株)三井住友銀行 | 4,400,000 | 88 | 5.00 |
| (株)みなと銀行 | 4,400,000 | 88 | 5.00 |
| 東洋建設(株) | 2,700,000 | 54 | 3.07 |
| (自己保有) | 2,000,000 | 40 | |
| 計 | 90,000,000 | 1,800 | 100.00 |

(3) 組織

2年3月31日現在、役員は取締役10人と監査役1人で、非常勤の代表取締役社長1人、常勤の代表取締役専務1人、常勤の取締役2人、社外取締役6人、社外監査役1人となっています。役員のうち、副市長が代表取締役社長に、阪神電気鉄道(株)からの出向者が代表取締役専務に就任しています。業務執行体制は、総務部、企画部及び営業部で、役員3人、従業員14人(うち阪神電気鉄道(株)からの派遣社員1人)が配置されています。

直近の株主総会は2年6月15日に開催され、市からは副市長と土木局長(社外取締役)が出席しています。

2 事業の実施状況

定款第2条に基づき実施されてきた事業内容は、次のとおりです。

会社は、西宮市鳴尾浜臨海公園南地区において、市より都市公園施設の管理許可を受け、平成4年10月4日、リゾ鳴尾浜をオープンしています。平成7年9月8日付で厚生大臣より「健康増進施設」・「指定運動療法施設」としての認定を受け、スポーツ・レジャーを通じて利用者の健康増進に寄与するとともに、フィットネスクラブ、プール、レストラン等の営業を行っています。平成7年度には温泉の掘削を行い、平成8年9月に県知事の温泉利用許可を得、屋外天然温泉プール、天然温泉健康風呂に活用しています。平成9年7月から隣接する東部総合処理センターからの蒸気供給が休止となり、経費増の要因となりましたが、平成25年4月から東部総合処理センター稼働により蒸気供給が再開されています。平成14年度からは、井戸を掘削して水道水より安価な井戸水浄化システムを導入し、水道料金の節減を図

っています。平成23年度からは、それまで(一財)西宮市都市整備公社が管理していた東西駐車場を会社が管理運営することとなり、会社の収益改善に貢献しています。

また、市から、リゾ鳴尾浜内市管理区域管理業務(元年度の業務委託料3,556万円(税込み))及びスポーツ奨励事業(同500万円(同))を受託しています。

平成30年9月には、台風21号により、建物本体やフェンス・照明灯などの施設が広範囲にわたって被災し、その影響により、10日間休館し、ウォータースライダーは平成31年3月末まで休止しました。さらに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年3月5日から19日までと4月9日から5月末日まで休館しています。

主な事業部門別の3か年の業務実績は、次の表のとおりです。

(単位：人・千円)

| 事業部門等 | | 29年度 | 指数 | 30年度 | 指数 | 元年度 | 指数 |
|----------------|------|---------|-----|---------|-----|---------|-----|
| プール・風呂 | 利用者数 | 139,703 | 100 | 140,944 | 101 | 145,374 | 104 |
| | 売上高 | 163,118 | 100 | 161,662 | 99 | 171,705 | 105 |
| フィットネスクラブ「エフィ」 | 利用者数 | 114,367 | 100 | 114,545 | 100 | 107,995 | 94 |
| | 売上高 | 108,840 | 100 | 110,174 | 101 | 98,571 | 91 |
| レストラン(1階) | | 99,900 | 100 | 93,117 | 93 | 96,169 | 96 |
| プロショップ | | 14,176 | 100 | 12,471 | 88 | 10,519 | 74 |
| 受託業務 | | 31,444 | 100 | 31,949 | 102 | 32,691 | 104 |
| 駐車場管理 | | 40,795 | 100 | 34,164 | 84 | 51,959 | 127 |
| 営業収益 | | 458,274 | 100 | 443,536 | 97 | 461,614 | 101 |

注1 「レストラン(1階)」以下の事業部門別数値は売上高。

2 指数は29年度を100とする(金額・指数は小数点以下第1位四捨五入)。

元年度における事業部門ごとの事業の実施状況は、次のとおりです。

(1) プール・風呂部門

利用者数は145,374人と、前年度に比べ4,430人増加しており、売上高も1億7,170万円と、1,004万円増加しています。上半期において、台風21号被害による10日間の臨時休業があった前年度と比較して入場者数の12,153人の増、売上高の1,552万円の増があったため、下半期において、11月初旬から2週間、温泉の泉源整備工事のため天然温泉が利用できなくなるとともに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月4日から16日間臨時休業を余儀なくされたものの、年度トータルで利用者数、売上高ともに前年度を上回ったものです。

(2) フィットネスクラブ「エフィ」部門

利用者数が107,995人と、前年度に比べ6,550人の減となり、売上高も9,857万円と1,160

万円の減となっています。

法人会員の減少傾向は続き、一般会員においても商圏人口の高齢化により退会者の増加傾向が続いています。35歳以下を特別料金とするアンダー35を新規導入するとともに、従来から行ってきた会員募集キャンペーンの継続実施や、ウェブサイト及びSNSによる情報発信の強化など、中若年層を中心とした新規会員の獲得に取り組んだものの、登録会員数（平均）は1,196人と、前年度の1,215人から19人の減となっています。3月4日からの臨時休業により、それ以降の新規入会はなく、現会員の一月分の会費を返金したこともあり、売上高の減となりました。

(3) 料飲部門（レストラン（1階））

3月の臨時休業があったものの、繁忙期のプール入館者の増加により、売上高は9,616万円と、前年度に比べ305万円増加しています。

(4) その他の部門

プロショップでは、プール利用人員は増加したものの、購買率は下がり、フィットネス商品の伸び悩みもあり、売上高は1,051万円と、前年度に比べ195万円減少しています。

受託業務では受託内容増により3,269万円と、前年度に比べ74万円の増となっています。

駐車場管理収入は、前年度の台風被害による利用者減及び隣接する海釣り公園の台風被害による長期休園からの反動による増や駐車料金の見直しにより、5,195万円と、前年度に比べ1,779万円の増となっています。

3 経営成績

最近3か年の経営成績と元年度の対前年度増減率は、次の表のとおりです。

(単位：円・%)

| 科 目 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 対30年度 増減率 |
|------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| I 経常損益の部 | | | | |
| 1 営業損益の部 | | | | |
| (1) 営業収益 | 458,273,897 | 443,536,363 | 461,614,137 | 4.1 |
| 売上高 | 458,273,897 | 443,536,363 | 461,614,137 | 4.1 |
| (2) 営業費用 | 455,989,681 | 446,899,151 | 451,413,278 | 1.0 |
| 売上原価 | 30,503,675 | 28,118,227 | 27,719,203 | △1.4 |
| 販売費及び一般管理費 | 425,486,006 | 418,780,924 | 423,694,075 | 1.2 |
| 営業利益 | 2,284,216 | △3,362,788 | 10,200,859 | — |
| 2 営業外損益の部 | | | | |
| (1) 営業外収益 | 470,204 | 546,235 | 543,767 | △0.5 |
| 受取利息及び手数料 | 323,713 | 396,164 | 368,886 | △6.9 |
| その他収益 | 146,491 | 150,071 | 174,881 | 16.5 |
| (2) 営業外費用 | 228,766 | 78,745 | 199,704 | 153.6 |
| 雑支出 | 228,766 | 78,745 | 199,704 | 153.6 |
| 経常利益 | 2,525,654 | △2,895,298 | 10,544,922 | — |
| II 特別損益の部 | | | | |
| (1) 特別利益 | 0 | 2,399,200 | 0 | 皆減 |
| 保険金受取 | 0 | 2,399,200 | 0 | 皆減 |
| (2) 特別損失 | 0 | 7,638,107 | 0 | 皆減 |
| 台風被害施設復旧費等 | 0 | 7,638,107 | 0 | 皆減 |
| 税引前当期純利益 | 2,525,654 | △8,134,205 | 10,544,922 | — |
| 法人税及び住民税等 | 211,000 | 211,000 | 211,000 | 0.0 |
| 当期純利益 | 2,314,654 | △8,345,205 | 10,333,922 | — |

元年度の経営成績は、次のとおりです。

(1) 営業損益

営業収益は4億6,161万円と、前年度に比べ1,807万円(4.1%)増加しています。内訳については、「2 事業の実施状況」のとおりです。

営業費用は4億5,141万円と、前年度に比べ451万円(1.0%)増加しています。これは、売上原価で39万円(1.4%)減少したものの、販売費及び一般管理費で491万円(1.2%)増加したことによるものです。売上原価の減はプロショップの売上減によるものです。販売費及び一般管理費の増は、人件費が臨時休業などによって105万円減となり、賃借料では、

入館システムをリースから購入に変更したことにより、リース料が323万円減となったものの、前年度は当期純利益が赤字のため免除された市への寄付金（緑化基金）を元年度は330万円計上したことや、新型コロナウイルス感染症対策のため、備品消耗品費が243万円増となったこと、減価償却費が温泉泉源整備工事他投資の増により372万円増となったことなどによるものです。

これにより、営業損益は1,020万円の黒字となり、前年度が336万円の赤字であったのに比して改善しています。

（2）営業外損益

営業外収益は54万円と、前年度とほぼ同額となっています。

営業外費用は19万円と、前年度に比べ12万円(153.6%)増となっています。これは、雑支出の増加によるものです。

これにより、営業損益に営業外収益を加え、営業外費用を減じた経常損益は1,054万円の黒字となり、前年度が289万円の赤字であったのに比して改善しています。

（3）特別損益

前年度、台風21号被害に関連し、特別利益として保険金受取が239万円、特別損失として台風被害施設復旧費等が763万円あったものが、いずれも皆減となっています。

これにより、税引前当期純損益は1,054万円の黒字となり、前年度が813万円の赤字であったのに比して改善しています。

法人税及び住民税等は前年度と同額の21万円と、住民税の均等割の額となっています。

これらの結果、税引前当期純利益から法人税及び住民税等を差し引いた当期純損益は、1,033万円の黒字となり、前年度が834万円の赤字であったのに比して改善しています。

4 財 政 状 態

最近3か年の財政状態と元年度の対前年度増減率は、次の表のとおりです。

(単位：円・%)

| 科 目 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 対30年度 増 減 率 |
|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| I 資産の部 | | | | |
| 1 流動資産 | 133,770,304 | 125,270,447 | 117,416,051 | △6.3 |
| 現金 | 14,774,032 | 11,183,876 | 7,759,791 | △30.6 |
| 小口現金 | 524,086 | 182,717 | 327,955 | 79.5 |
| 普通預金 | 6,270,208 | 1,028,285 | 2,845,497 | 176.7 |
| 売掛金 | 3,459,368 | 3,703,477 | 927,491 | △75.0 |
| 商品 | 2,952,811 | 3,252,351 | 3,014,678 | △7.3 |
| 原材料 | 1,584,443 | 1,108,317 | 1,264,896 | 14.1 |
| 貯蔵品 | 0 | 0 | 141,052 | 皆増 |
| その他の流動資産 | 104,205,356 | 104,811,424 | 101,134,691 | △3.5 |
| 2 固定資産 | 40,885,983 | 61,211,187 | 60,399,082 | △1.3 |
| (1)有形固定資産 | 40,137,981 | 54,095,004 | 53,662,204 | △0.8 |
| 建物 | 1,750,809 | 4,540,949 | 4,311,170 | △5.1 |
| 構築物 | 14,455,930 | 13,767,903 | 12,970,365 | △5.8 |
| 機械及び装置 | 404,182 | 230,057 | 127,564 | △44.6 |
| 工具器具備品 | 12,645,379 | 26,018,025 | 22,514,943 | △13.5 |
| 建物附属設備 | 10,881,681 | 9,538,070 | 13,738,162 | 44.0 |
| (2)無形固定資産 | 648,002 | 7,016,183 | 6,636,878 | △5.4 |
| 電話加入権 | 648,000 | 648,000 | 648,000 | 0.0 |
| ソフトウェア | 2 | 6,368,183 | 5,988,878 | △6.0 |
| (3)投資その他の資産 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 0.0 |
| 差入保証金 | 100,000 | 100,000 | 100,000 | 0.0 |
| 資 産 合 計 | 174,656,287 | 186,481,634 | 177,815,133 | △4.6 |
| II 負債の部 | | | | |
| 1 流動負債 | 56,762,496 | 73,045,633 | 56,320,142 | △22.9 |
| 買掛金 | 1,413,940 | 1,583,989 | 408,550 | △74.2 |
| 未払金 | 46,535,749 | 66,477,951 | 35,398,911 | △46.8 |
| 預り金 | 692,807 | 693,318 | 7,737,548 | 1016.0 |
| 前受金 | 770,400 | 714,600 | 2,460,100 | 244.3 |
| 未払消費税等 | 3,427,000 | 912,108 | 6,968,700 | 664.0 |
| 賞与引当金 | 3,711,600 | 2,452,667 | 3,135,333 | 27.8 |
| その他の流動負債 | 211,000 | 211,000 | 211,000 | 0.0 |
| 2 固定負債 | 5,481,909 | 9,369,324 | 7,094,392 | △24.3 |
| 長期未払金 | 5,481,909 | 9,369,324 | 7,094,392 | △24.3 |
| 負 債 合 計 | 62,244,405 | 82,414,957 | 63,414,534 | △23.1 |
| III 純資産の部 | | | | |
| 1 株主資本 | 112,411,882 | 104,066,677 | 114,400,599 | 9.9 |
| 資本金 | 90,000,000 | 90,000,000 | 90,000,000 | 0.0 |
| 利益剰余金 | 24,411,882 | 16,066,677 | 26,400,599 | 64.3 |
| 繰越利益剰余金 | 24,411,882 | 16,066,677 | 26,400,599 | 64.3 |
| 自己株式 | △2,000,000 | △2,000,000 | △2,000,000 | 0.0 |
| 純 資 産 合 計 | 112,411,882 | 104,066,677 | 114,400,599 | 9.9 |
| 負債・純資産合計 | 174,656,287 | 186,481,634 | 177,815,133 | △4.6 |

元年度の財政状態は、次のとおりです。

(1) 資 産

資産合計は1億7,781万円と、前年度に比べ866万円(4.6%)の減となっています。

ア 流動資産

流動資産は1億1,741万円と、前年度に比べ785万円(6.3%)の減となっています。これは主として、臨時休業に伴う、その他流動資産367万円(3.5%)、売掛金277万円(75.0%)及び現金預金146万円(11.8%)の減によるものです。

イ 固定資産

固定資産は6,039万円と、前年度に比べ81万円(1.3%)の減となっています。このうち、有形固定資産は5,366万円と、前年度に比べ43万円(0.8%)の減、無形固定資産は663万円と、前年度に比べ37万円(5.4%)の減となっています。

投資その他の資産は10万円と、前年度と同額となっています。

(2) 負 債

負債合計は6,341万円と、前年度に比べ1,900万円(23.1%)の減となっています。

ア 流動負債

流動負債は5,632万円と、前年度に比べ1,672万円(22.9%)の減となっています。これは主として、臨時休業により、会費等返金額を計上したため預り金が704万円(1,016%)増加したものの、3月度の各種料金、賃金等の減により未払金が3,107万円(46.8%)減少したことによるものです。なお、流動負債の主なものには未払金3,539万円、電気料金、下水道料金、臨時雇用賃金などとなっています。

イ 固定負債

固定負債は709万円と、前年度に比べ227万円(24.3%)の減となっています。これは長期未払金の減によるものです。

(3) 純 資 産

純資産合計は1億1,440万円と、前年度に比べ1,033万円(9.9%)の増となっています。このうち資本金は9,000万円と、増減はありません。利益剰余金残高は2,640万円と、前年度に比べ当期純利益分1,033万円の増となっています。負債と純資産を合わせた負債・純資産合計は1億7,781万円と、前年度に比べ866万円(4.6%)の減となっています。

(4) 経営指標

会社の主な経営指標は、次の表のとおりです。

(単位：%)

| 区 分 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 算式 |
|---------------|--------|--------|--------|----------------|
| 流 動 比 率 | 235.67 | 171.50 | 208.48 | 流動資産÷流動負債×100 |
| 自 己 資 本 比 率 | 64.36 | 55.81 | 64.34 | 自己資本÷総資本×100 |
| 総資本経常利益率 | 1.45 | △1.55 | 5.93 | 経常利益÷総資本×100 |
| 自 己 資 本 利 益 率 | 2.06 | △8.02 | 9.03 | 当期純利益÷自己資本×100 |
| 売上高営業利益率 | 0.50 | △0.76 | 2.21 | 営業利益÷売上高×100 |

元年度の各経営指標の数値は、前年度に比べ一定の改善が見られます。

流動比率が元年度においては200%を超えており、短期的な支払い能力についての一定程度の安全性を示しています。

会社の安全性の目安となる自己資本比率も元年度において64.34%となっており、前年度から改善しています。

収益性の目安となる総資本経常利益率、自己資本利益率、売上高営業利益率ともに元年度においては、前年度のマイナス値から改善しています。

5 事務処理等の状況

会計処理及び契約事務について、総勘定元帳、仕訳伝票、収入・支出関係書類、契約関係書類等を抽出して調査したところ、次のような状況が見られました。

① 貸借対照表の表記が望ましくないもの

2年3月期における貸借対照表について、その他流動資産が1億113万円計上されています。このうち、9,322万円はキャッシュ・マネジメント・サービス（以下「CMS」という。）への預け金でした。この額は総資産1億7,781万円に対して約52%の割合になるため、CMS貸付金ないしCMS預け金として区分掲記することが望ましいと考えます。

② 寄付採納の時期が確認書に定められた時期と異なるもの

平成16年3月15日付の市と会社の間寄付採納確認書によれば、4月1日から翌年2月末日までの収入実績と3月分の概算売上高をもって当年度の寄付金採納対象売上高とし、年度末までに寄付採納し、3月分は決算において営業収入が確定次第寄付金を精算し採納するとされていますが、実際には、元年度分については、営業収入確定後の2年7月27日付で寄付採納しています。会社の説明では、決算確定後に納付金額を確定し納付する方式が現実に即していると考えられ、西宮市の収入としても、決算確定後の納付の方式が最終

的な金額で事務処理がなされるので煩雑さが軽減されるという理由で、市と協議の上、実質的な了解を得て4月以降の決算確定後に納付しているとのことです。

③ 現金の有高が貸借対照表と一致しないもの

貸借対照表における期末の現金7,759,791円を数えた資料の提出を求めたところ、提出された現金有高表においては現金有高が8,000,000円となっており、240,209円多くなっていました。差額の発生時期や原因について説明を求めると、大部分(202,255円)が平成26年4月30日以前に発生したものであるとのことで、違算の原因は、売上計上に関する手続の漏れや仕訳の登録誤りなどと推測されています。このような状態のまま放置せず、不一致の解消の処理及びそれに向けた原因の解明が速やかに行われるべきでした。

6 市と会社の関わり

(1) 施設の補修・更新

基本協定書等で、施設の基本的な構造設備維持補修は市が負担することとなっています。

市は平成22年度から「リゾ鳴尾浜施設・設備補修工事10か年計画」に基づき順次補修を行っていましたが、平成27年度に中長期修繕計画を見直し、「リゾ鳴尾浜保全計画」を策定しました。この計画及び施設の老朽化進行度合いを踏まえて、優先順位付けをした上で順次補修を行っています。

(2) 会社の経営に対する市の支援、評価

市は、基本協定書等に基づき、リゾ鳴尾浜の施設・設備等について、都市公園法第5条に基づく管理許可等をしてはいますが、使用料の免除等で支援を行っています。

元年度においては、リゾ鳴尾浜が健康運動施設として、市民の健康増進に寄与することを目的としていることから、閑散期の経営改善だけでなく市民利用率の向上も目的として、割引券を市内の保育所・幼稚園・小中学校に対して配布しており、また、健康増進につながることを目的として、フィットネスクラブを体験してもらう「スポーツジム2週間体験」のチラシを市内の中学校や高等学校、公民館や体育館に送付し、西宮市在住・在勤・在学者にPRしています。割引券やチラシを市立の学校園や施設に対して送付する際には、庁内メールを活用することで郵便料を抑えられるよう、市が関与して取り組んでいます。

会社の財政状況については、平成22年度開催の西宮市第三セクター等経営検討委員会の報告書を踏まえた経営を継続しており、台風の影響を受け赤字に転落した平成30年度を除き、平成23年度からは継続して黒字を保っています。

7 む す び

今回の出資団体監査は、主に財務事務を中心に監査を実施しました。

元年度の会社の経営状況は、台風被害の影響を受けた前年度より改善が見られましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2年3月から9月までの平均利用実績は、前年比で5～6割減となっています。市及び会社による試算では、今年度末の収支見込みは約1.1億円の赤字となり、累積損益は今年度末で約8千万円、3年度末で約1.7億円の累積赤字となる見込みで、仮に、一時的に融資を受けて営業を継続したとしても、今後の黒字回復が困難な見込みであるとのことです。

そこで、2年10月28日に行われた市議会の建設常任委員会における所管事務報告において、土木局より、会社の営業継続の可否について他の株主と協議を行った結果として、経営を継続せず、施設の早期の営業終了並びに会社の解散及び清算を行うことが報告されました。

リゾ鳴尾浜は市民の健康づくりのサポート役としての健康増進施設の機能を果たしていくことが求められてきたため、これまで施設に対して、補修工事などにより多額の費用が投入され、市から会社に対しては、駐車場を含めた土地・建物の使用料免除などにより多大な支援がなされてきました。しかし、施設全体の老朽化が進行し多額の更新費用が必要とされる状況の中で、新型コロナウイルスによる影響が追い打ちをかけたため、会社の営業を終了し解散及び清算を行うという判断をされましたので、今後、その判断について、市民に対する十分な説明が求められます。